

平成 25 年度 第 3 回逗子市療育推進事業検討会 議事概要

平成 26 年 3 月 17 日 (月) 10:00～正午 市役所 3 階 庁議室

出席者

友野メンバー、加藤メンバー、山本メンバー、中野メンバー、小林メンバー、杉山メンバー、鈴木メンバー、中村メンバー、早川メンバー (欠席 角野アドバイザー)

小川基本構想アドバイザー

市長、和田部長、新倉課長、伊達係員

(傍聴者なし)

議事概要

市長

・当初はセンターの設置場所として菊池ビルを検討していたが、訴訟などもあり現状として建替えが進んでいないため、この先の(仮称)療育・教育の総合センターの目途が立たない状況となっている。

・そのため、設置場所を桜山の青少年会館の 1、2 階部分に変更し、整備をしていきたいと考えている。

・現在の療育の利用者や育成会などには説明をしてきたが、青少年会館にはあまりいいイメージを持っていない意見もあったので、リニューアルして送迎の充実についても考えていきたい。

・スケジュールとしては、平成 26 年度から平成 27 年度に設計と工事を行い、平成 28 年度中にはスタートさせたいと考えている。

・センターの運営については、基本は市の直営を考えているが、部分的には委託も検討している。いずれにせよ人材が最も重要である。

・市の中心部で実現したいという思いは強かったが、現状として難しい中で、できるだけ早くサービスと提供したいと思い、苦渋の決断であったが、青少年会館の方向で検討をしたいと考えているのでご理解と忌憚のない意見をいただきたい。

中野メンバー

・育成会としては、駅前ビルに障がい者の拠点ができることをとても期待していた。

・その代替りの場所が青少年会館と聞いてとても衝撃を受けた。

・このまま駅前を待つのか青少年会館にするのか、とても平等とは思えない二者択一であったが、受け入れざるを得ないと判断した。

・これからは、いかに内容の良い療育にするか考えていかなければならない。

山本メンバー

・市の中心にあるということで、市民に対して障がい者のことを市としても意識してやっ

ているということに意義があると考えていた。

- ・以前に利用者の声として裏口を設けてほしいという話をしたが、ロケーションとしては裏口しかなくなってしまった状況ではないか。

小川アドバイザー

- ・一般論としては、障がいがあることについては隠すものではないと個人的には考えている。

- ・今後はそれをどうソフトで解決していくのか。市民に対する啓蒙啓発活動をどういう位置づけでやっていくかでカバーしていくか。

中野メンバー

- ・日中一時支援など障がい児の居場所は街中につくってもらいたい。

山本メンバー

- ・人の手当ては重要である。

- ・青少年会館での整備は結論か。

市長

- ・訴訟がここ数カ月で結論が出るのは厳しく、菊池ビルそのものはかなり難しい。

- ・公共施設の配置の見直しも含め、他の土地も検討をしたがいろいろと難しい問題がある。

- ・青少年会館で整備するとすれば、教育研究所と一体の施設は価値がある。菊池ビルに比べスペースも広く使える。

- ・最終決定している訳ではない。今後パブリックコメントなどを経て進めていく。

加藤メンバー

- ・場所にこだわる必要はないと思っていた。スペシャリスト的な人材を確保してもらいたい。

友野メンバー

- ・最初に、菊池ビルに療育センターができると聞いたときは驚いた。自然と触れ合いながら療育していくことは大事である。ただ青少年会館は坂になっていて大変である。

早川メンバー

- ・療育はケアの部分も大事だが、教育も大事である。

- ・教育研究所と療育とを一体化することで、ソフト的な連携がうまくできやすい環境になるのでは。

市長

- ・耐震診断上は問題ないが、施設そのものの老朽化は否めないなので、リニューアルが必要である。

小川アドバイザー

- ・教育研究所を見せてもらったが、必ずしも十分ではないなと思いつつもできない建物ではない。ただ、水場関係が入り口周辺に寄ったつくりになっているので、工夫が必要である。

- ・骨子案の第4章について、どなたに対してどう提言するのか難しいが、アドバイザーとしての立場で参加しているので、逗子市行政に対して提言するという意味合いでつくってみた。

山本メンバー

- ・相談というのが伝わりにくかったが、もっと踏み込んでやれということだと理解した。

小川アドバイザー

- ・本来であれば、具体的な解決が図れないといけない。

中野メンバー

- ・療育はサービスなのか。はじめて聞いたが、サービスという言葉に抵抗感がある。

- ・基本構想案で、どういう部分で総合センターになるのかわからない。肉付けする前にはつきりとしないと、教育との連携のイメージができない。

小川アドバイザー

- ・仙台でも学校の先生が相談員としてセンターに入っている。

中野メンバー

- ・育成会としてはどんなに障がいが高くても地域で暮らすべきという考え方があるので、言い回しを検討してもらいたい。本当は地域にいるべきではないのに、地域にいるという感じがする。

小川アドバイザー

- ・いろいろな考えがあることは承知しているが、教育として特別支援学校にという判断としても、地域でという方もいる。

- ・言葉使いについては、違う表現でということであれば変えて構わない。

中野メンバー

- ・「育てにくい子ども、育てにくさを感じさせる子なら良いのではと。」

山本メンバー

- ・保護者支援とは、保護者教育という意味合いか。保護者療育スキルの充実などはどうか。

友野メンバー

- ・親が育つことも大事だが、周りの市民の理解が重要である。

小川アドバイザー

- ・提言にもうひとつ、啓蒙啓発や市民など地域理解のニュアンスも入れる。

加藤メンバー

- ・相談はいきにくいので、最初のハードルを低くしてもらいたい。

友野メンバー

- ・健診の時はなかなか参加できない人もいるので、巡回相談の充実は大事である。

中野メンバー

- ・総合センターの難しさがでている。

小川アドバイザー

- ・私のイメージでは、市民の皆さんにとって相談を1カ所にいけばよいというのがとりあえずの総合性だと思う。

中村メンバー

- ・子育て部門（3）一元化については、一元化する必要がないものもあるのでは。子どもが少ないのであれば、逆にどこでもよいのでは。

以上